



Subaru

男声合唱団

ニュース№472

'14. 8. 4

合発曲を中心にレッスン

8月1日

□ 8月1日（金）の定例レッスンは奥村さんの体操に始まり本並先生の指揮、静さんのピアノで、「降りつむ」、伊藤副指揮者の指揮で、「街を返せ」をみっちり、休憩後再び本並先生の指揮で、「初心のうた」、最後に合発バージョンで「降りつむ」と「街を返せ」をレッスンしました。参加は全35名でした。



□ レッスン一口メモ欄に「降りつむ」について、本並先生の、8月1日レッスン時の全指導事項を録音から起こして詳細にメモした力作原稿を吉川さんから投稿頂きました。「降りつむ」については、前回の指摘をすぐ忘れてしまい、毎回、同じような指摘指導を受けます。少々長いですが、皆さん、この後掲のメモを反芻して「身に染みて」理解しながら歌う必要があると思います。

□ 藤後名誉団長が「勇退」されるにあたって、立川事務局長が下記の「感謝の手紙」をメールされていますので紹介します。

藤後さんへの感謝の手紙

長い間の昴の活動ほんとうにご苦労様でした。85歳といえどもかくしゃくとしたお姿は昴の未来そのものでした。うたごえのみならず反戦平和を貫いてのあらゆる活動は目を見張るものがあり、私たちに人間として生きる道筋を示していただきとても感謝しております。藤後さんが戦時中の厳しい時代にあっても文化の心を忘れずロシア兵の歌から昴へ思いを繋げてこられたこと、それが今大きく花開いていること、素晴らしい生き様だと思います。先日の昴の総会で新人の川妻さんが「昴に入ったことで新しい人生が開けた、毎日がわくわくする」と感想文を寄せられました。多くの人々を感動の人生に導いてこられたあなたに心から感謝します。あなたの築いてこられたこの道を大切に、そしてみんなで力を合わせて大きく築いていきたいと思います。本当にありがとうございました。健康でご活躍をお祈りしています。

立川

「降りつむ」をフレージングを考え、アーティキュレーションを工夫して歌おう！

投稿（2014年8月1日のレッスンより・メモ書き）BR 吉川勝彦

- ・出している声が何をうたっているのか聞き手にわからない！のでは困る！言葉を引き出せ！
 - ・拍子やリズムや音程だけではない。歌詞や旋律を表現したい、ことばやフレーズをいかに表現するか？が大事だ。
 - ・音楽で大切なことはフレージングとアーティキュレーション！
 - ・音はまず出来たものとして（拍子やリズムや音程やメロディなど）、次に大事なのがフレージングとアーティキュレーション。アーティキュレーションを良くして言葉を表現する。音にする。自分でアーティキュレーションして、表現して曲を作らないと！
 - ・歌の表情にはまり込まないで、他人事のように歌うのは聴き手としては面白くない、この「降りつむ」の状況を分かって声を出そう！
- （1945年終戦のあの雪、泣き面に蜂のように降り積もる厳しい雪、一番困難なときにもまた雪が降ってきた！…）

悲しみのくにに 雪がふりつむ

“悲しみのくに一に 雪がふりつむー”

の初めの4小節は各パートの音が接近しているので、各パートは音を鮮明にして入らないとボヤーとした音になる。ハーモニーがぼやける。低音部は特に音程しっかり確保せよ。

“かなしみのくに一に”の“か”は気張って”か“と言わない。しかし、しっかりと”か“を言え。”あなし“と聞こえては駄目！。

“かなしみ”を平板に一字ずつ連ねては駄目！

“かなしみの”“み”、“くに一に”は(p)、まだ小さく音を出すとしても、音を響かせろ、音を鳴らせ！

最初の“ゆきがふりつむ”は初めの出だしから小さくてよい(p)。暗い表現でよい。“ふりつむ”的“む”的音はつきり合わせること。合っていないよ！(BR)“ゆきが”の“ゆ”はしっかり発音する。“うき”ではだめ。

この出だしの4小節で各パートが音をそろえ、先が期待できる良きアーティキュレーションに表現しよう！

悲しみをかてとしていきよと

ゆきがふりつむー ふりつむー ふりつむー

かなしみをかてとして

“かなしみ”をいきなりクレッシェンドにしない、

“かてとして”をクレッシェンド、アーティキュレートして、

“かてとして”的“かて”は言葉として、はっきりと大事にして、“かて”

“いきーよとー“

強く”いきーよと“と言う。”とー“はディミヌエンド。

”ゆきーが“

Dim.（だんだん弱く）あまり大きく言わないが、はっきり言わないと揃わない。”が“は鼻濁音で引き気味に。”ゆきーが“は単音！きれいな音で！

“ふりつむ”“ふりつむ”“ふりつむ”

和音正しく！しっかり合わす！！

“む”的表現と声の出し方合わせて！

失いつくしたものの上に

雪がふりつむ

その山河の上に

その薄いシャツの上に

そのみなしごの乱れた髪の上に

四方の潮騒いよいよ高く

雪がふりつむ 雪がふりつむ

p=80で早くなる

うしないつくしたもののうえーに

mpだがしっかりした詞で歌う。やや激しく！

平板な表現は駄目！アーティキュレーションしよう！アクセントどこに置くか？

“うしない／つくした／もののー／うえーに／と強調？

2段目の“ゆきがふりつむ”はディミニュエントしない（だんだん弱くしない）で、

“むー”をいっぱい延ばす。休みなしで、切らずに”その山河の上に“へ入る。

その山河の上に : 気持ちをしっかり持って、しっかりした音で

その薄いシャツの上に : 言葉揃えて、ばらばら！（は聞き苦しい！）

そのみなしごの乱れた髪の上に : みなしごの“み”をしっかり出す。聞こえないよ！

乱れた髪の上に：“みだれたかみの上に”をしっかりした音で出す。

四方の潮騒いよいよ高く

四方八方の潮騒（潮が満ちてきて波が立ち騒ぐことの意）（日本のあちこちの海で高波が押し寄せてきて、すべてのものが虐げられている状態か？）

“よものしおさい”は言葉はっきりと！“よも”“しおさい”

“いよいよたかく”も気持ちをいれて！

ゆきがふりつむー ゆきがふりつむー

最初の“ゆきはふりつむ”は豊かな音で！普通でない降り方、感情を入れた表現で！

次の“ゆきはふりつむ”は p(ピアノ)で小さめの音で、

夜も昼もなく 長い悲しみの 音楽のごとく

泣きさけびの声をしずめよと ゆきがふりつむ

ヒヨドリや狐の 巣にこもるごとく

悲しみにこもれと

地に強い草の葉の 冬を越すごとく

冬を越せよと 冬を越せよと————その下から——

冬を越せよと 冬を越せよと————

この部分のフレージングははっきりと表現しないと、歌として持たない（維持できない！）、聞き手にとって単調に聞こえておもしろくない。言いたいことをはっきりと言葉にして、何を歌っているのか、言っているのか？はっきりさせよ

う。歌詞が聞き取れないので困る。ずんべらぼうにならないこと。

“よるも”“ひるも”:はっきり“よる”“ひる”と言葉に出すこと。”おる”“いる”と聞こえる。

“よるもひるもなく”:音が落ちていく！“よ”“ひ”を高めで合わす。

mfで少し興奮して表現してよし！

“ながいかなしみのおんがくのごとくー”をユニゾンで(リズム、音程、長さ等)しっかり合わせること

”ヒヨドリや狐の巣にこもるごとく“

“ヒヨドリ”はユニゾンだから、気張って声を出すと怒ったように聞こえる。丁寧にやさしい表現で、音程合わせて！

“ひよどりや——きつねの——”まで声を張って、一気に！声は一緒の調子で、ずっと腹筋で支えろ！

”巣にこもるごとく——“で、気を抜いた音は駄目！伸ばして声を維持しろ！支えきれず、音下がり気味！

”かなしみに”:“かなしみに”的“かな”しっかり出す！フォルテ(f)。トップ(テナー)が責任を持って声をそろえて”かなしみ“を出す。低音部も声をそろえて、ファルセットでよし！表現は”本当に悲しいのだ！“

”地に強い草の葉の冬をこすごとく”

音符に大きい、小さい、重い、軽い、を作ること。自分で感じて！ずんべらぼうな表現ではダメ。

“地に”“強い”“くさ”“葉”“冬”とそれぞれのことばをはっきり言う。

”冬をこすごとく——“しっかり支えて、”く“の言葉ほったらかしにしない！音程下げずに、口の奥を空けたまま、こごもらいで、はっきり、きれいな”く——“を

”冬を越せよと”“冬を越せよと”“冬を越せよと——”その下から“

なぜ3回も”冬を越せよー！”と言っているのか？

たたみかけるように、クレッシェンドで、

しかも最後の”冬を越せよと——”の”と——”はフォルテ(f)。

なぜフォルテにしているのか？

怒ってよし！”怒り“の気持ちを持って言ってよいと思うので、一気に盛り上げて！

そして低音部が“と——”を小さく、きれいな単音で奏でて、テナーの

“その下から——”を引き出す。”

”その下から“

が聴かせどころ。低音部大きくならないように”その下から——“が聞こえるように！

やがてよき春の立ちあがれと 雪ふりつむ

無限にふかい空から しづかにしづかに

まず、テンポプリモ(初めのテンポに戻る 付点4部音符=60へ)

”やがてよき春ーの一”:もっと延ばす、明るく表現して！

”たちあがれとー”: 明るく！

”ゆきーふりつむー”:“ゆき”の音をきれいに合わせたら成功だ！この音合わせるのむつかしい！

バス”ゆきー”の“き”が低い！

”むげんにふかーい空から”の表現はむつかしい！

バリトン: “むげんにふかーい”の“む”はもう少し高めに！

バリトン: “そらから”の“ら”はきれいな“ら”を出せ！あらっぽい！

“そらから”をきれいな音色にそろえて！

“しづかに しづかに”

合わない！

“しづかにしづかに”の2つの“ず”低くならないこと。

テナー：最初の“しづかにー”の“にー”と次の“しづかにー”の“し”（同じ音程）高さしっかり保って！

しづかにーしづかにー：“しづ”的“ず”が強すぎるのは駄目！きれいな“ず”を、

本当に“しづかに”の表現を！最後の“しづかにー”の“にー”はユニゾン！合わせろ！

非情のやさしさをもって 雪がふりつむ

悲しみの国に 雪がふりつむ

初め80で入って72で終わりなさい！ここから少し早くなる。

この10小節はユニゾン、音程等はやさしいが、それだけによけい感動的に演奏しよう！

「非情のやさしさ」とは？

その意味のとらえ方はいろいろあろうが、たとえば“それどころじゃない、傷つき、瀕死の状態、住むところもない焼野原、痛みつけられた、そんなすべてのものに”やさしさを！“

“ひじょうの”下からしゃくりあげるような声出すな！上から声を出す！“やさしさ”につなげるよう、

“やさしさを“の”を”は助詞、あまり大きく歌わない、音程しっかりととて、大事に！

最後の“悲しみの国に 雪がふりつむ”

こここそ、アーティキュレーションの聞かせどころ。単一の音で。単調にならないこと。ディミニュエンドに、テンポは72へ。

“かなしみの一くにに”の：“の一”BR、BS、きれいなファルセットで！

“ゆきが”“の”が“は鼻濁音、音程(ソソレ)。

“ふりつむ”少しディミニュエンドしている。(だんだん弱く)

・・・・皆さん、如何でしょうか？こんなに沢山指摘を受けています。吉川さん、暑いなか録音を何度も聴きなおしながらのメモ化、ありがとうございました。ご苦労様でした。なかでも「しづかにしづかに」のところの音の狂いはアーティキュレーション以前の問題、なんとかしないと！意欲をもって、全部こなしきって、入賞を勝ち取ろう！

8月31日(日)の定例レッスンは取りやめます。

この日は北部の合唱発表会があり、本並先生は指揮、昴の団員の中でも数人はステージで発表、他、審査委員長でこちらに出席する人もいますので、定例レッスンは「取りやめ」とします。

□ 「アムール河の波」について T1 若園さんから調査、投稿して頂きました。いつもありがとうございます。地図もついていましたが、ページ数の都合で次号に掲載させていただきます。悪しからずご了承ください。

「アムール河のさざ波」(アムール河の波) (Amurskie Volny)

曲とは1903年に M. キュツス ^{カウ}
(1874~1942)

ラジオストクでピアノ曲として作曲したもの。
吹奏楽とともに演奏されたと想われる。

キュツスはオデッサ出身のユダヤ人で
後に軍楽隊長としてラジオストクへ赴任
した。1927年にオデッサに戻ったが
1942年にオデッサを占領したドイツ軍に
よって銃殺された。

1944年にハバロフスクの樺東軍付属歌
と踊りのアレサンブルの指揮者ルミナツエフに
よってこの曲が発見され合唱用に編曲
され際 S. ポポーフに作詞させたもの。
歌詞は後に K. ワシリエフによって補筆
された。

アムールは、中国とロシアの国境に
沿って流れるシベリアの大河。

ロシアでは父なる川、平和の守りなど
呼ばれ親しまれてきた。中国の黒龍江
である。

印パリレーヴ子のリズムで演奏
される典型的なロシア風。

樺東ラジオ局ではコールサインとして
この曲が用いられる。

日本・ロシア音楽家協会編集
河合書店出版部 (2006年8月) 発行
「ロシア音楽事典」より。

「アムール川」

シベリア南東部と中国東北部との
国境およびその附近を流れる川。
滿州語でサハリン・ウラ、中国語で
黒竜江あるいは黒河。北東アジア
第一の長流で、全長は 4,440 km。
本流のみで 2,824 km、流域面積
185万5,000 km²。ハフル川の源流に
(はじまり)アルゲン川として、中ソの国境を
流れ、途中、ヤブロノイ山脈に発して
東流するシルカ川を合わせ(この合流点
より下流を本流と呼ぶ)さらに
ハバロフスクでウスリー川を右岸に
合わせて東流し、無数の曲流を
くり返して、オホーツク海に終わる。

上流部で11月上旬、下流部で11月中旬に
結氷し、4月に溶ける。

高水期は融雪期の春～初夏であるが、
モンスーンによる降雨のために秋にオの
高水期がみられる。ハバロフスクにおける
年間流量は 840 km³ (平均 / 万 800 m³/s)
おがの支流はシルカ、スニガリ(松花江)、
ゼーヤ、ブニヤ、ウスリー、アムグンなどの川である。

本流の中流域と支流のウスリー川は国際
河川で、水上交通がさかんである。

1858年の璣琿(あいぐん)条約で、アムール川
左岸がロシア領となり、ウスリー川の東側を
ロシアと清国の共同管理とした。
この条約を追認する1860年の北京条約では、
ウスリー川以東の地域もロシア領となつた。

平凡社 (1989年8月25日発行)

「ロシア・ソ連を知る事典」より